

Scouting Ibaraki

2016 vol.43

常総市の災害復旧ボランティア活動を実施!



9月10日、東北・東日本豪雨により鬼怒川が決壊・越堤し、常総市内で東西約4キロメートル、南北約18キロメートルという広大な範囲の畠や家屋が水に浸かるという大水害が発生した。

茨城県連盟では、シルバーウィークに実施予定の研修会、野営事業を中止・延期し災害復旧ボランティア活動への体制整備を開始した。

災害復旧ボランティア活動は9月19日（土）から23日（水）までの5日間で、延べ201名の参加により実施した。

上の写真は9月20日の相野谷地区での活動終了時のものです。ボランティアセンターからの指示で、現場写真はNGだったのですが、ご好意によりこの写真のみ撮影させていただきました。

また、復旧支援のための募金活動は県内各団・各隊ごとに自主的に取り組まれましたが、義援金は県内13個団より県連事務局に寄せられ、その金額は554,175円に達しました。寄せられた義援金はつくば第3団の団委員でボーイスカウト振興茨城議員連盟の会員でもあります星田弘司議員のご尽力により、12月28日、つくば第3団のスカウト・指導者と共に常総市の高杉徹市長に直接お渡しました。当日は同団所属で常総市在住のスカウトも同席し、募金活動の模様を高杉徹市長にお話ししました。



グリンバー(ボーイ隊班長・次長)のつどい



は」「GBの心得」「GBは何をしなければならないのか」「GB改造計画」が行われた。引率指導者はスカウトが勉強している間に地図とコンパスによる「SF探検」に出かけ、へとへとになって帰ってきました。夕食後はキャンプファイヤーでした。今年は「B-Pの営火」を思わせる「小さな火」を囲んで隊長の話を聞くものでしたがGBのつどいの良さを満喫できました。続いて「何でも相談コーナー」が設けられ活潑な相談で盛り上がりいました。

2日目はシルバーアックス2時限目が行われ、終了後に閉会となりました。参加スカウト達は県コミッショナーから「GBのつどい特製ワッペン」を渡され、高萩スカウトフィールドを後にしました。

10月31日から11月1日に第3回グリンバー(GB)のつどいが高萩スカウトフィールドにおいて行われた。

このグリンバーのつどいは4つの目的があり、それは①GBの位置付けと役割の再認識。②GBの意識高揚。③参加スカウトが自信を持て班員に知識、技能を指導できるようになる。④他の団のGBと仲間になる。であった。

具体的には「シルバーアックス」という10の教室から2つを選択して、知識や技能の習得と他のプログラムに参加するもので、1日の午前中は「ワークショップ」としてGBの位置付けを「GBと

富士章の伝達式が行われる！

本年度第2回目の富士章伝達式が12月20日、県青少年会館で行われた。

伝達式は、山田理事長を始め、県連盟役員、ご父兄、隊指導者の列席のもとに、富士章は、日立第8団ベンチャースカウトの藤本佳奈子さんに、併せて隼章が日立第6団ベンチャースカウトの高谷詩織さんに伝達された。

藤本さんは、一昨年の秋から富士章を目指しての取り組みを始めた。部活動や課外活動、スカウト活動の全てを学業と共に真摯に取り組み、課題に挑戦してきました。特に宗教は浄土真宗大谷派高園寺の延岡宏潤住職による4ヶ月あまりにわたるご指導の結果、取得されました。その報告書は、修行僧を思わせるほどの認識と決意が伺えます。

藤本さんより、長期間の取り組みで最後までやり遂げられたのは、先輩富士スカウトの日立第5団の助川さん、一緒に隼章を取り組んでくれた高谷さん、そして厳しい中にも温かくご指導いただいた指導者の存在がありましたとの感想が寄せられました。



宗教者との懇話会

10月9日、宗教者と県連理事との懇話会が昨年に続いて県連盟信仰奨励専門委員会の主催として開催された。宗教者は川又巳三男師（神父）、瀬波純恵師（住職）、W・ドネガン師（神父）、矢作博史氏（禰宜）、柴沼四郎氏（宮司）の5氏が出席され、連盟からは山田理事長ほか5名の理事と、信仰奨励専門委員会の5名が出席しました。

始めて、新たに教導職をお受け頂いた柴沼様に委嘱状の贈呈が行われ、続いて寺内委員長から「ちかいとおきて」は人としてあるべき姿である。自然に身に付くようにスカウト活動を実践する。との挨拶は宗教者から大きな賛同を得られました。



山田理事長からは後藤新平の自治三訣「人のお世話をならぬよう」をベースにした挨拶をいただきました。自己紹介につづいての懇話会ではいろいろなお話が有りましたが、特に印象的な言葉として、宗教者側から「他宗派の宗教者は私にとっての先生であり、とても大切にしている」「座禅は大切、座禅以外では無になれない」「目を開じて、手を合わせるだけで立派な信仰である」「自然は素晴らしい手本」「少年の時にスカウト活動を行うことは非常に有意義」という言葉がありましたが、出席者一同は新しい発見と同時に有意義なひとときを共有して散会となりました。



チャリティーゴルフ大会

ボーイスカウト茨城県連盟維持財団主催

ボーイスカウト茨城県連盟維持財団主催のチャリティーゴルフ大会が、10月22日、富士カントリー笠間俱楽部において盛大に開催された。本大会で、7回目の開催となり、53名の参加者がありましたが、参加者は日頃の腕前を発揮せんと果敢にコースに挑戦した。

大会は3コースに分かれてスタートし、新ペリヤ方式で実施された。コース途中には、ワンオンコンテストのホールがあり、ワンオンしない場合はチャリティが義務付けられましたが、ワンオンした方



からもチャリティの申し出があり、和やかな一日となりました。

当日は、維持財団立原理事長、県連盟山田理事長にも表彰式に出席いただき、ごあいさつや賞品の授与等を行ってくださいました。

また、多くの県連盟内外の方々から協賛金、賞品のご寄付をいただき参加者にお持ち帰りいただいた。チャリティ金は今後県連盟の活動資金として活用されます。



日本連盟主催



しぜんとあそぼう
ディキャンプ
in 高萩フィールド 2015
に県連より奉仕参加

日本連盟は地球環境基金の助成を受けて「大和の森 高萩スカウトフィールド」において高萩市内の小学生を対象に「しぜんとあそぼう ディキャンプ in 高萩フィールド 2015」を授業の一環として11月10日から4回開催された。茨城県県連からは実技指導奉仕の依頼を受け、次の3氏が奉仕された。

【11月24日】若林 新一 第一地区コミッショナー（日立第8団）

【11月25日】戸館 善敬 県連盟理事（牛久第2団）

【11月26日】吉川 黙 県連盟理事（水戸第4団）

●参加者は高萩の小学生232名

●活動内容は参加者を10名程度に分けてスタッフ1名が引率しました。

●プログラムはテント張り、ロープ結び、火おこし、暗夜行路、キムスゲーム、モンキークリッジ、丸太切りなどでした。



本年度のスカウトの日は、地球大好き！「地球まるごとキレイにしよう！」をテーマに、9月21日に実施され、県内25個団、スカウト・指導者868名が参加した。

集めた空き缶は1284本、ペットボトルは787本となり、合計2071本を回収した。さらに、公共施設の清掃、ベンチの清掃、常総市の災害義援金の募金等、団独自の取り組みも展開され、地域の方々にも、好意を持って受け止めてもらえることができました。

参加したスカウトは口々に「きれいになってよかった」「どうしてよごすのだろう」「苦しんでいる人のためにがんばった」など、人の役に立つプログラムを楽しみ、来年もまたスカウトの日に参加しようと誓い合いました。



平成27年度日韓スカウト交歓計画交流プログラム

日韓スカウト交歓計画の日本のスカウトとの交流プログラムが1月9日（土）から11日（月）の2泊3日、成田市内のマロウドインターナショナルホテルで開催され参加したスカウトは韓国スカウト36名、日本スカウト47名でした。茨城県連盟からはボーイスカウト2人が参加し感想が寄せられました。

●飯村 周平君（水戸第4団）

2泊3日と短い期間でしたが「韓国と日本がより親交を深めるにはどうしたらよいか」のテーマで話し合い、お互いの考えをまとめて発表できました。3日間を一緒に過ごすことにより、韓国スカウトと楽しく過ごせました。行く前には不安がありましたが会話はスタッフの通訳により解決し、23WSJでの知人とも会えて楽しかった。歴史博物館見学を通して世界について学びたいと思いました。この様な機会を与えてくださった団・地区・県連の方々に感謝します。



●増田 妃菜（牛久第2団）

英語力の向上と韓国スカウトとの親交を深める事を目的に参加しましたが英語は韓国スカウトの日本語が上手くて機会がありませんでした。でも、班長会議に出席して英語での説明を日本語に訳せたので、大きな成長を感じ事ができました。韓国スカウトとの交流では最初は日本語を韓国語に翻訳して戴いて話しましたが2日目には翻訳サイトの利用で親交が図れ、最終日には3人のスカウトとアドレス交換ができました。今回のプログラムでは普段できない貴重な体験ができたので、機会があればもう一度参加したいと思いました。



◆森の中でのオリエンテーリングにチャレンジ!

日立第8団では11月29日に小木津山自然公園で、地域にボイスカウト活動をPRするとともに、団内スカウトへの環境教育の一環として、「森のなかをかけめぐるゲームをしてみませか?」をテーマにオリエンテーリングを実施した。ビーバー隊は「森のビンゴ」、カブ隊は「森のウォーク」、ボーイ隊以上は「森の探検」として設定されたコースを、地域の小学生10組と北茨城第1団のスカウトも参加し、合計62名が各々のコースにチャレンジした。ビーバースカウトたちは地図を頼りに課題を解きながら森の中を駆け回り、全員ビンゴを達成しました。カブスカウトたちはコマ図をたどる自然観察で、へとへとなりながらも笑顔でゴールした。ボイスカウト以上は本格的オリエンテーションコースのため指導者も参加の対抗戦であったが、優勝はやはりスカウトに軍配が上がった。どのコースにおいても参加者全員が自然を守る大切さを感じた1日となりました。



◆第1地区 スカウトフェスティバル

10月25日、第1地区では第33回スカウトフェスティバルを助川小学校校庭で開催した。150名が参加して「世界の不思議を探せ! (消えた謎のページ??)」をテーマとした、参加団提供のプログラムに挑んだ。午前中は各部門に分かれてラリー、読図、パイオニアリング等で競いながら交流し、午後は23WSJ参加とイギリス隊ホームスティの歓迎行事についての報告会を実施した。23WSJに参加したスカウトがセクション毎に写真を



使って体験報告をし、質問に自信を持って説明する姿が頗もしかった。またフェスティバルに参加したビーバースカウトにも大きな夢を与えたと感じた。今後も継続して開催し、地区の交流を深めたい。

◆第4地区 カブキャンプ&ビーバーラリー



10月11日に第4地区カブキャンプをつくば市内で開催した。各団のカブスカウトを8つの組に分け、約10キロのハイキングを行いました。課題の解けた組から、地図をもらはれ、途中のチェックポイントで答えを記入しながら次のチェックポイントを目指して進みました。2か所の関所で難問に挑戦し、お菓子をゲット、どの組も全員完歩することができました。楽しそうで、解散時間が延びてしまうほど、とても良い交流となった。また、18日には第4地区ビーバーラリーをつくば市の高崎自然の森で行った。自然の中で1日中ゲームをしたり、みんなでお弁当を食べたり、普段の活動では味わえない大人数での楽しい活動となりました。



◆第42回よかっぺまつりを支援・奉仕!!

9月12日、常陸多賀駅前のよかっぺ通りで第42回よかっぺまつりが「進撃のよかっぺ未来に向けて」をテーマに盛大に開催された。よかっぺ祭りは、常陸多賀の街で、市民参加型の、みんなで創り上げるスタイルで祭りを繋いでいるが、ボイスカウト第1地区でも、日立南部の団を中心に参加と奉仕活動を積極的に実施している。例年、地域の団体による出店、小中学校生徒による伝統芸能、吹奏楽の発表などが行われ、ボイスカウトはオープニングパレードや募金活動、清掃活動、交通整理、バザー支援等を通して今年も祭りを盛り上げました。祭りで集まったすべての募金は「常総市鬼怒川水害義援金」として常総市に贈りました。

◆第2地区 ベンチャー隊合同キャンプを開催

第2地区では地区内の交流と個々のスキルアップを目指して、地区ベンチャー隊の合同キャンプを行った。12月19日~20日水戸第2団くろすキャンプ場で開催し、厳寒の中での炊事課題、野外料理4種類に挑戦した。夜間には月明かりの下、無名スカウト、BP最後のメッセージについてのヤーンを行い、信仰についての意識を深めるキャンプとなった。今回は年末という日程や風邪の発症ということから、3個隊のみの参加となつたが、地区合同活動をベンチャー活動の一つとして位置付け、ベンチャー活動の活性化を図っていきたいと考える。



◆水戸第4団 年末恒例の餅つきを実施

水戸第4団では過ぎ去ろうとしている年に感謝し、新たな年を迎えるための準備として行っている日本の伝統行事である餅つきを毎年年末に行っている。今年もスカウト全員が参加し餅つきに挑戦した。皆、興味津々で順番待ち、つきあがった時の達成感は格別のものであった。すべての餅がつきあがった後に、つきたての餅と温かい豚汁がふるまわれ、自分でついた餅を食べたスカウトたちは皆ご機嫌でした。毎年、餅つきの実施に当たっては、育成会、スカウトクラブの皆さんに事前の準備から運営、片づけまで参加していただきました。このことにより、一年の締めくくりに相応しい行事となりました。

